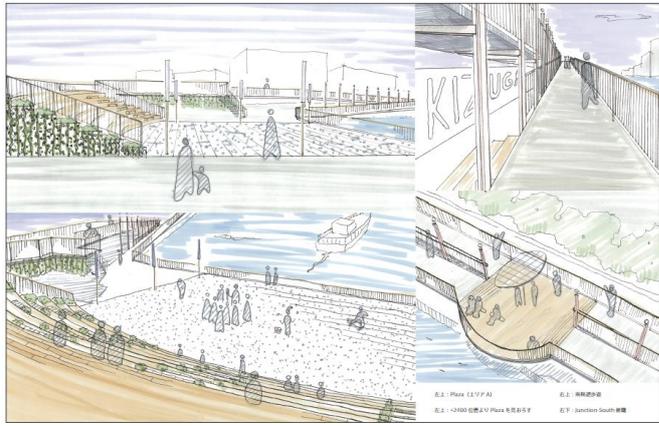
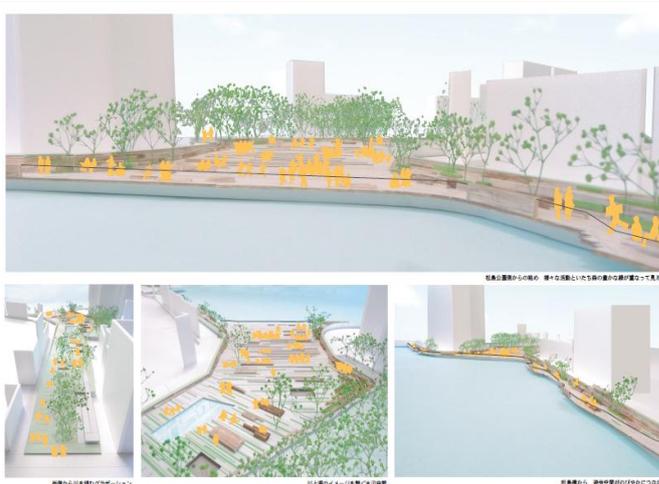
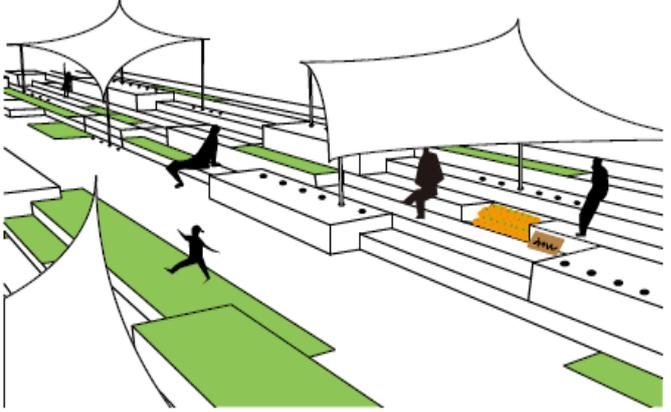


木津川遊歩空間アイデアデザインコンペ（松島橋～大渉橋左岸）

一次審査 選考作品一覽

応募者氏名 【応募者所在地】	作品名 (コンセプト等)	イメージ画像
伊藤 聡宏 【東京都】	<p>「起伏のある遊歩道」、「集のための離」、「活動の広場」</p> <p>木津川地域に昔から住まわれている方々、新しく移ってこられた方々、大阪市外府外から訪れる方々、そうした異なった時間や場所を経た人たちが一同に集まれる遊歩道空間を目指します。この遊歩空間が核となり契機となり、新旧を共に内包した未来の木津川エリアを皆で共に育てていける活動空間として機能すべくデザインします。治水した川沿いでありながら、どこか自然のなかを流れる川沿いを歩くような、訪れる人たちの気持ちを楽しませる遊歩道空間をデザインします。</p>	 <p>名: Plaza (エゾア) 名: 集の広場 名: +2000 自然より Plaza を見おろす 名: Junction South 橋端</p>
一級建築士事務所設計室 渡瀬正記+永吉歩 【東京都】	<p>堤防パークでまちと水辺をつなぐ</p> <p>まちと水辺を隔てまちを水害から守る堤防は、まちの地盤より高く、まちからも川からもよく見えます。逆に、堤防の上に立てば、まちも川もよく見えます。その堤防自体を公園化する事で、まちと川につながり、まちと川をつなぐ新しい水辺の場所をつくります。</p>	 <p>木津川遊歩空間アイデアデザインコンペ 堤防パークでまちと水辺をつなぐ</p>
一級建築士事務所 ofa 小原賢一+深川礼子 【兵庫県】	<p>キツミスロープテラス</p> <p>～街と人と川が歴史と自然でつながる場所～</p> <p>木質材と緑を集積するキツミのシステムで作る遊歩空間には、自由な断面を活かして様々な居場所を設え、訪れる人がそれぞれ思い思いに過ごせる大きなテラスのような場所を作ります。遊歩空間は川辺から街へ、対岸へ、緑と視線を繋ぐことで、かつての材木筏が連なった立売堀の記憶と新しい場所が生み出す街の未来のイメージを伝えます。</p>	 <p>河川敷から川を望むアタラシクシオン 川と街のイメージを繋ぐ水辺空間 立売堀から対岸へ、緑と視線を繋ぐことで街へ 立売堀から、遊歩空間のつながり</p>

<p>Ryoko Iwase</p> <p>【東京都】</p>	<p><u>だんだんばたけでハマベをつくる</u> <u>～立売堀のマーケットプレイス～</u></p> <p>対象敷地の歪んだ形状は江戸時代にそこにあった「材木浜」の遺影である。かつて開削されていた立売堀と百間堀川と木津川とが合流する場所、そこでは諸国からの物品の陸揚げが行われたため、市場が開かれる賑わいの空間であった。見知らぬ商人と出会い、仲間と井戸端会議をし、時折川の脅威に怯え、水の臭さを憂え、夕暮れ時には己の人生と対話する空間でもあった。時代の要請による堀川の埋め立てや、防波堤により整形された川の輪郭によって、人々は肉体的にも精神的にも川辺から隔離されている。近年はマンションの連立と核家族の増加によりかつての職住連帯的なコミュニケーションの存在も忘れ去られつつある。</p> <p>本提案は、浜辺の地形であり、畑や花壇であり、市場の陳列棚であり、都市へのアクセスであり、ベンチでもある「だんだんばたけ」をつくることで、現代に生きた「浜」をとりもどすことである。川辺に生きる住民のための空間と風景を創出する。</p>	
<p>清水 泰博</p> <p>【東京都】</p>	<p>木津川・遊歩空間の全体コンセプトの「歴史性と未来性の融合」「祝祭的コミュニケーション」「安らぎのある親水空間」といった要素を、ただ全体に広げるのではなく、それぞれの場所に相応しい要素を当てはめていくように計画していくべきかと思われる。その場合場所によっては全ての要素が盛り込めるところも出てくる。</p>	